

モビリティを活用したビジネス・イノベーション・コンテスト 2022

最終審査会



2022/12/10

東京大学 福武ホール

ごあいさつ

本日は「モビリティを活用したビジネス・イノベーション・コンテスト(M-BIC) 2022 最終審査会」にお越しいただき、誠にありがとうございます。関係者のみなさまに多大なるご支援、ご協力を賜り、ここに第1回目のM-BICの最終審査会を開催させて頂く運びになりましたことを、心より感謝申し上げます。

本コンテストは、産官学の垣根を越えて未来の社会を議論し、それをもとに自動運転を活用したビジネスアイデアを提案するという、これまでにないビジネスコンテストになっています。全国10校の大学・大学院・高専から13チームの学生が参加し、これまで関係省庁の皆様、企業の皆様と4ヶ月に渡る議論を重ねて参りました。

本日披露される考え抜かれたアイデアがひとつの起爆剤となり、今後のモビリティにイノベーションを起こすことを願ってやみません。未来を創る新しいアイデアを、どうぞ最後までお楽しみください。

M-BICオーガナイザー / 東京大学生産技術研究所特任研究員 長谷川 悠

プログラム

13:30 受付開始

14:00 開 会

- 開会挨拶 東京大学生産技術研究所特任研究員 長谷川 悠
- 主賓挨拶 SIP 自動運転 プログラムディレクター 葛巻 清吾
- M-BIC課題紹介
- 審査員紹介

14:15 プレゼンテーション 第1部

15:50 プレゼンテーション 第2部

17:30 賞の発表・授与

審査員講評

17:50 主催者挨拶 東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構 須田 義大

閉会挨拶 東京大学生産技術研究所特任研究員 長谷川 悠

18:00 閉 会

チーム紹介

No.	チーム名	ビジネスプラン名	ビジネスモデルの紹介
1	Doshisha Consulting Group (DCG)	自動運転による新たな旅のスタイル	本ビジネスプランでは、自動運転車を活用したミステリーツアーを提案します。大学生を中心とした若者をターゲットとして、公共交通機関では辿り着きづらい地域への旅行プランを旅行者の希望を元に作成し、今までにない最高の旅を提供します。
2	TLAB	Auto-Kensha: End-to-end and On-Demand Autonomous Emergency Vehicle Service for People in Need	Auto-Kensha will revolutionize ambulance services by leveraging self-driving technology. With our services, we intend to significantly decrease the time it takes to bring a patient to the proper hospital. Our business model utilizes business-to-government and business-to-business models for operations in Japan and foreign countries, respectively. Save more lives with us!
3	OMUCT_S	移動時間削減のための差別最適化を行う信号機制御ビジネス	我々は信号機を制御して登録車両のみを優先するという世界を作り出します。社会受容性の観点から、最初に公共性の高い乗り物の優先を第一段階として行います。特定の個人ではなく、社会全体の利益を考えています。
4	TRAVAY	移動×滞在空間の自動運転車サービス	Our business is a "Travel x Stay" service that fully utilizes Autonomous Vehicle even when it is charging. Our service primarily assists Muslims (people who belongs to Islam religion) by providing them with a space to pray while it charges known as "Stay" service, and it will function similarly to a taxi while traveling known as "Travel".
5	MW	マチミチーポチっと道路占有ー	自動運転車の普及による車線減少や歩行者道路化を見据え、道路占有・使用に関わる基盤を構築し、市民の道路利活用促進や行政の負担軽減、ダイナミックマップ上での申請データ活用を通じ、マチをミチから変革します。
6	MobiTecture	ふらっと ～都市の隙間で愉しむ～	自動運転によって不動産に変化を起こします。魅力はあるが、不動産価値が低いエリアに低速自動運転車を利用することで価値を生み出します。時に車両を集約させて賑わいを生み出し、時にいつもより心ときめく移動体験を演出します。
7	LING	V-park ーバーチャル駐車場ー	V-parkは『いつでもどこでも使える駐車場』。自動運転に駐車を任せることが「新たな移動の自由」「土地利用の変革」「シェアリングエコノミーの拡大」を実現する。持続可能な社会の基盤となるビジネス提案。
8	ナバー	いつでもどこでもセルフエステ	完全な個室空間になることを活かし、車内でセルフエステのサービスを展開します。移動時間を自分磨きのVIPな空間にしてみませんか？
9	NISLAB	おとモビ #移動式ロッカーで快適な旅へ	おとモビは、街中や公共交通機関内で邪魔な荷物を運ぶ自動運転車として、お客様にお供し、ご希望の場所まで荷物をお届けします。お客様はハンズフリー旅行を楽しめ、必要な時に荷物を手に入れることができます。
10	TUEL	余韻コンシェルジュ	ライブなどのイベント終了後、飲食店や宿泊場所まで移動する際に、自動運転のメリットである周囲の目を気にしないプライベートな空間で、イベントの「余韻」を楽しみながら移動するサービスを提案します。
11	大阪公立高専物流ズ	自動運転を活用した物流システムの自動化・最適化ビジネス	物流における顧客満足度の向上と運送会社の負担軽減を同時に満たすため、自動運転による“動く宅配ボックス”を導入し、日本の物流を変えるビジネスプランを提案します。
12	SPEL	自動運転を用いた 観光・移動用次世代モビリティ	私たちは自動運転を用いて誰にも運転を気にすることなく自由に行きたい場所にたどり着ける、そんなサービスを提供します。運転への不安のない、旅行を存分に楽しめる新体験を提供します。
13	OCSy	老いゆく郊外のための 自動運転モビリティ	赤字となっているバス路線でバスの代替手段として自動運転モビリティを用いることによる利便性の向上を図ると同時に、公共交通をビジネスとして運行することで公共交通の在り方そのものを変える提案となっています。

主催



東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構
<https://utmobi.u-tokyo.ac.jp/>



同志社大学モビリティ研究センター
<https://mrc.doshisha.ac.jp/>



一般社団法人モビリティ・イノベーション・アライアンス
<https://mobilityinnovationalliance.org/>



後援



内閣府
Cabinet Office

デジタル庁
Digital Agency

特別協賛

neocareer

BOLDLY
UPDATE MOBILITY

MRI
三菱総合研究所

ASMobi
先進モビリティ株式会社

News
Technology

EV-AICHI

MS&AD
三井住友海上

TIER IV

協賛

HONDA
Honda Mobility Solutions

WILLER

DSK
スマートモビリティシステム

XXADE
X Transformation by Autonomous Drive Enabler

KOIP
京都クオリアフォーラム

M-BICのwebページはこちら
<https://park.itc.u-tokyo.ac.jp/m-bic/2022>

